

クビワコウモリ

Eptesicus japonensis Imaizumi

コウモリ目ヒナコウモリ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

選定理由

全国的にも分布している県が少なく、本県においても生息の確認場所が少ない。

国内分布

日本固有種で、これまでに福島県、栃木県、埼玉県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県において確認されている。

県内分布

舩倉島と白山市（旧吉野谷村）中宮の2箇所を確認されている。

生態

昼間のねぐらは樹洞であるが、樹洞が少なくなっているため、現在では家屋の壁板の下や天井裏で出産・哺育する例も知られている。後者の場合は100頭を越える大きな群を作る。

生息地の条件

自然林内に生息する。

生存の危機

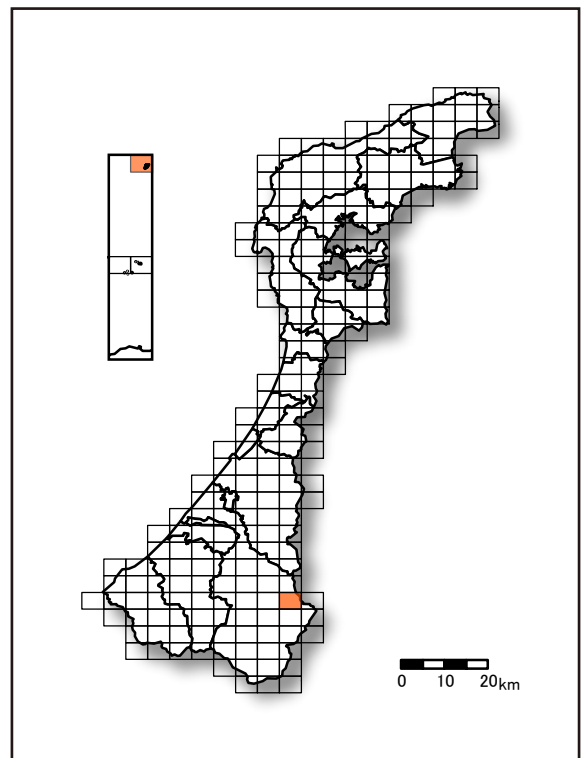
現在までに、福島県、栃木県、埼玉県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県において生息が確認されているが、出産・哺育が確認されているのは、長野県、石川県、岐阜県のみである。
(A)

特記事項

原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。白山市中宮では、授乳中のメスが複数捕獲され、出産・哺育が確認されている（山本ら 2005）。白山市中宮の森林は、クビワコウモリの生息にとって特に重要であると言える。周辺の森林の完全なる保存が望まれる。舩倉島で確認されたクビワコウモリが、どこから移動してきた個体なのか不明である。

参考文献

前田喜四雄・原田正史・竹田伸一・野崎英吉 1992. 舩倉島でとれたクビワコウモリ. 石川県白山自然保護センター研究報告. 19:87-89.
山本輝正・上馬康生・野崎英吉 2005. 石川県白山地域のコウモリ相調査—1998年～2005年の調査結果より—. 石川県白山自然保護センター研究報告. 32:25-30.



県内の分布